



(仮称) 印西市生涯学習ビジョン策定に向けた検討状況

印西市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課

令和8年8月18日 印西市総合教育会議

はじめに

本日は、ビジョン策定に当たって設置した庁内ワーキンググループ（WG）における現時点の検討状況についてお話しいたします。

1

ビジョン策定の目的：

- ・ 社会情勢の変化や地域課題に複雑化に対応し、本市の生涯学習・社会教育の新たな指針を明確化します

2

WGの実施状況：

- ・ 令和8年7月に、教育委員会と市長部局の関係各課で構成するWGを設置し、議論を開始

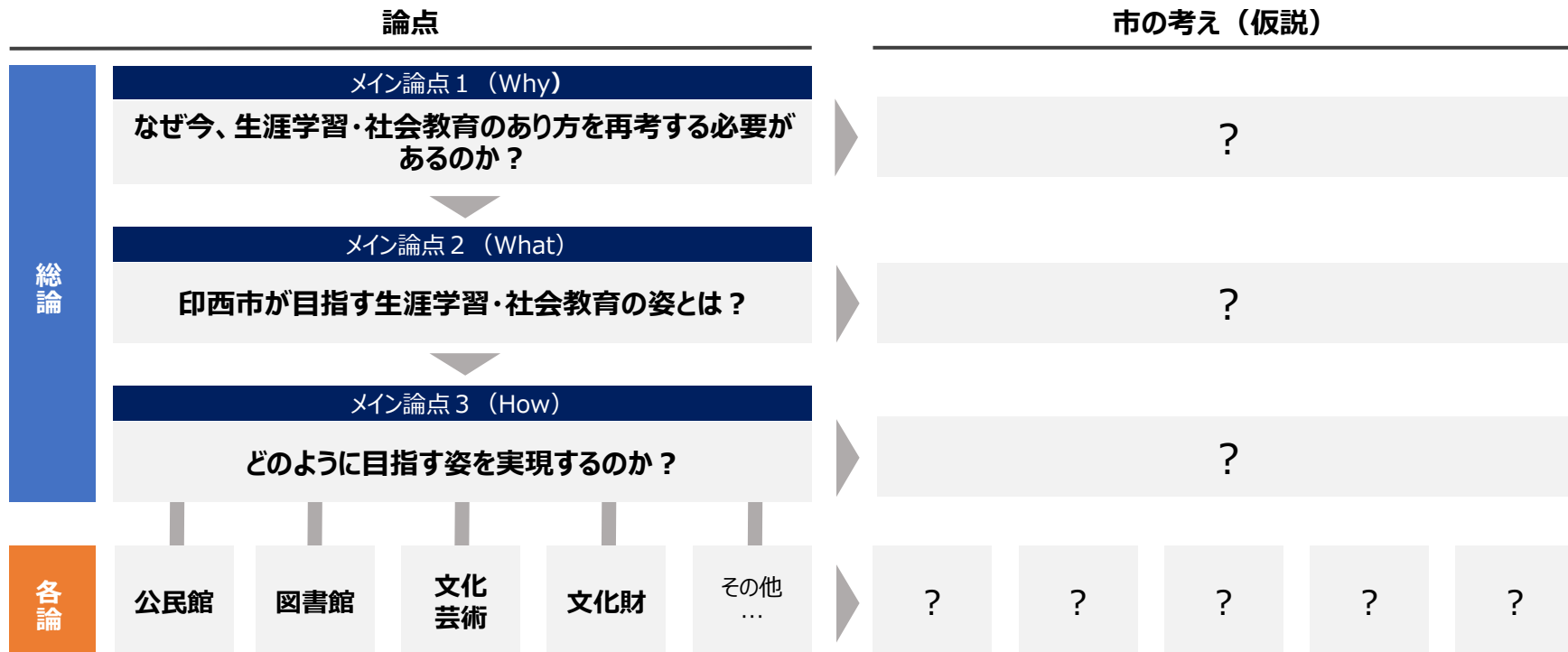
3

本説明の目的：

- ・ WGにおける現時点の検討状況についてご意見をいただき、今後の更なる検討に生かしていきます

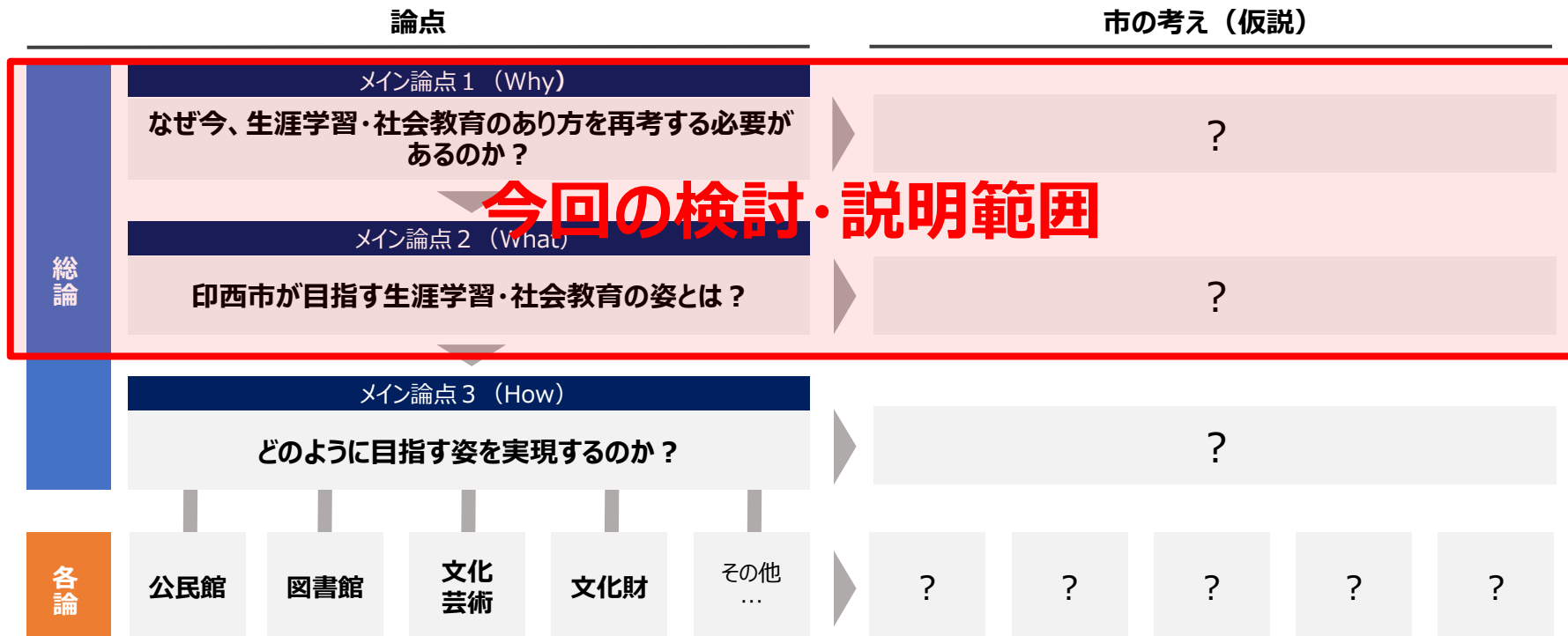
(仮称) 生涯学習ビジョン検討の全体像

ビジョン策定に向けて、総論として、「なぜ今再考する必要があるのか」、「何を目指すのか」、「どのように実現するのか」の3つの論点について検討します。そのうえで、公民館や図書館などの各分野について検討を進めます。



今回の検討・説明の位置づけ

これまでのWGでは、「なぜ今、再考する必要があるのか」、「目指す姿とは何か」まで検討を行いました。本日は、現時点までの検討状況についてご説明いたします。



WGで実施した検討の全体像

メイン論点の議論を深めるために、各サブ論点を設定し、WGで検討しました。
各サブ論点の検討結果を踏まえ、メイン論点に対する現時点の考えを整理しました。

メイン論点 1 (Why)

**なぜ今、生涯学習・社会教育のあり方を
再考する必要があるのか？**

サブ論点1-1

(一般論として) どのような時代背景？

サブ論点1-2

(上記の時代背景を踏まえたとき)
印西市の状況 (現状・課題) は？

現時点の考え (仮説)

メイン論点 2 (What)

**印西市が目指す生涯学習
社会教育の姿とは？**

サブ論点2-1

生涯学習と社会教育の定義と、それぞれの目的の違い
をどのように考えるべきか？

サブ論点2-2

教育ビジョンで掲げた理念等の関係性をどのように考
えるべきか？

サブ論点2-3

住民自治・地域コミュニティとの関係性をどのように考
えるべきか？

現時点の考え (仮説)

論点 1

なぜ今、生涯学習・社会教育のあり方を
再考する必要があるのか？

WGで実施した検討の全体像（再掲）

メイン論点1（Why）

なぜ今、生涯学習・社会教育のあり方を
再考する必要があるのか？

サブ論点1-1

（一般論として）どのような時代背景？

サブ論点1-2

（上記の時代背景を踏まえたとき）
印西市の状況（現状・課題）は？

現時点の考え（仮説）

メイン論点2（What）

印西市が目指す生涯学習
社会教育の姿とは？

サブ論点2-1

生涯学習と社会教育の定義と、それぞれの目的の違い
をどのように考えるべきか？

サブ論点2-2

教育ビジョンで掲げた理念等の関係性をどのように考
えるべきか？

サブ論点2-3

住民自治・地域コミュニティとの関係性をどのように考
えるべきか？

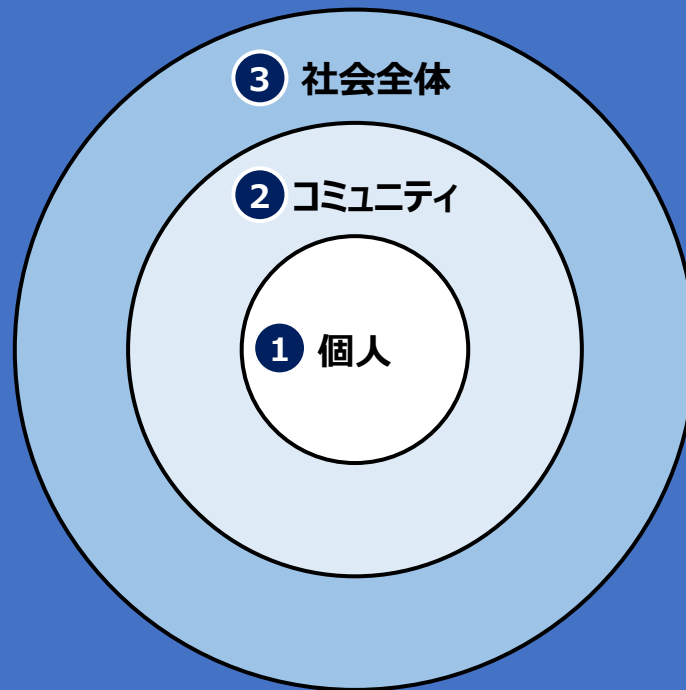
現時点の考え（仮説）

(一般論として) どのような時代背景？

サブ論点1-1

WGで出た意見を「① 外的要因」、「① 個人」、「② コミュニティ」、「③ 社会全体」の4つの視点で整理してご説明します。

① 外的要因 (背景)



(一般論として) どのような時代背景？

サブ論点1-1

人生が長期化し、社会が急速に変化する中、生涯にわたって学び続けることの重要性が高まる一方、人々の関係性が希薄化しています。社会全体として見ると、様々な課題が生じており、行政だけで対応することが困難となっていることから、持続可能なあり方が問われています。

0

外的要因（背景）

社会が急速に変化

- 人口減少・少子高齢化が進むとともに、AI・デジタル技術、家族形態、働き方、価値観等が急速に変化しています。

1

個人

生涯学び続けることの重要性

- 平均寿命が延び、人生が長期化する中、学校で身につけた知識だけでは、社会の変化に対応し、人生を豊かに過ごすことは難しくなっています。そのため、学校を卒業した後も必要に応じて学び続けることの重要性が増しています。一方で、生活の多忙化や孤独・孤立といった状況も生じています。

2

コミュニティ

関係性の希薄化

- 地縁を通じた従来のつながりが弱まり、人々の関係性が希薄化しており、人が自然に集まり、世代を越えて交流する機会は減少しています。一方、趣味、関心、課題意識等を通じた新しいつながりも生まれています。

3

社会全体

複雑・多様化する課題

- 福祉、教育、防災等に関する様々な課題が生じ、行政だけで対応することが困難になっています。これからは、多様な主体が社会全体で支え合う持続可能な仕組みづくりが必要となっています。

【参考①】（一般論として）どのような時代背景？

サブ論点1-1

人口減少・少子高齢化、AI・デジタル技術の発展など、社会を取り巻く環境が急速に変化しています。

①

外的要因（背景）

人口減少・少子高齢化

人口減少と少子高齢化が同時に進み、社会や地域を支える人が減少しています。一方で長寿命化が進み、人生100年時代が到来しています。

AI・デジタル技術の発展

AIやデジタル技術の発展により、情報の収集方法や学習方法、生活の在り方が大きく変化しています。

雇用形態の変化

従来の日本的な終身雇用ではなく、転職することが一般的となり、雇用形態が変化しています。

社会の複雑化・予測困難化

社会の変化が早く、将来を見通すことが難しい時代となっています。正解が1つでない課題も増える中、自ら考え、判断し、変化に対応していくことが重要になっています。

【参考①】（一般論として）どのような時代背景？

サブ論点1-1

人生が長期化し、生き方や働き方が多様化する中、自ら考え、判断することが必要になっています。学校卒業後も学び続けることが必要となっています。

1

個人

生き方・働き方の多様化

家庭内の役割や働き方が多様化しています。従来の生き方にとらわれず、一人ひとりが自分に合った人生を選択できるようになっています。

自ら考え、学び続ける必要性の高まり

多様な選択肢の中から自ら考え、判断することが必要になっています。また、人生100年時代の到来により、学校卒業後も必要に応じて学び直し、学び続ける必要性が高まっています。

情報を得る力から、選び判断する力へ

AIやデジタル技術の発展により、情報を容易に得られる一方、その正しさを見極め、自ら考え、適切に判断する力が重要になっています。

個人に最適化された暮らし

技術の進展により、個人で生活を完結できるようになる一方、人との関わりが減少し、孤独・孤立の問題も生じています。

【参考②】（一般論として）どのような時代背景？

サブ論点1-1

地縁を基盤としたつながりが希薄化し、地域活動の担い手が減少・固定化しています。一方、趣味やボランティア等をきっかけとした新たなつながりが生まれています。

2

コミュニティ

地域のつながりの希薄化

生活様式や価値観の変化などにより、地縁を基盤とした人と人とのつながりが以前より弱くなっています。地域社会の中で、自然に人と出会い、助け合い、関係を築く機会が得にくくなっています。

地域活動の担い手減少・固定化

人口減少や高齢化などを背景として、自治会、地域活動、文化活動などの担い手が減少・固定化しています。限られた人が継続的に役割を担うのではなく、新たな人が地域と関わるきっかけをつくる必要性が高まっています。

地域を構成する人々が多様化

職業、出身地、国籍、生活スタイルなど、同じ地域で暮らす人々の背景が多様になっています。

地域との関わり方の多様化

地域への関わりが、趣味、スポーツ、ボランティア、市民活動、学習活動など様々な入口から生まれるようになっていきます。地域コミュニティを地縁を基本とした従来の関わり方だけでなく、多様な側面から捉える必要があります。

【参考③】（一般論として）どのような時代背景？

サブ論点1-1

複雑・多様化する課題が生じていることから、一人ひとりの知識や経験を社会で生かしつつ、多様な主体が関わりながら、課題に対応していくことが求められています。

3

社会全体

複雑・多様化する 課題への対応

社会が抱える課題が複雑・多様化し、行政だけでは対応しにくくなっています。

行政だけでなく、個人、団体、企業など、多様な主体が関わりながら、課題に主体的に対応し、支え合うことが求められています。

多様な価値観

生き方や価値観が多様になる中、異なる考え方や背景を持つ人がともに社会をつくっていくことが重要になっています。互いを理解し、認め合いながら社会に参加できる環境が求められています。

一人ひとりの力を 社会に生かす重要性

一人ひとりが仕事や生活、学びを通じて得た知識や経験を、人とのつながりや地域の中で生かしていくことが重要になっています。

WGで実施した検討の全体像（再掲）

メイン論点1（Why）

なぜ今、生涯学習・社会教育のあり方を
再考する必要があるのか？

サブ論点1-1

（一般論として）どのような時代背景？

サブ論点1-2

（上記の時代背景を踏まえたとき）
印西市の状況（現状・課題）は？

現時点の考え（仮説）

メイン論点2（What）

印西市が目指す生涯学習
社会教育の姿とは？

サブ論点2-1

生涯学習と社会教育の定義と、それぞれの目的の違い
をどのように考えるべきか？

サブ論点2-2

教育ビジョンで掲げた理念等の関係性をどのように考える
べきか？

サブ論点2-3

住民自治・地域コミュニティとの関係性をどのように考える
べきか？

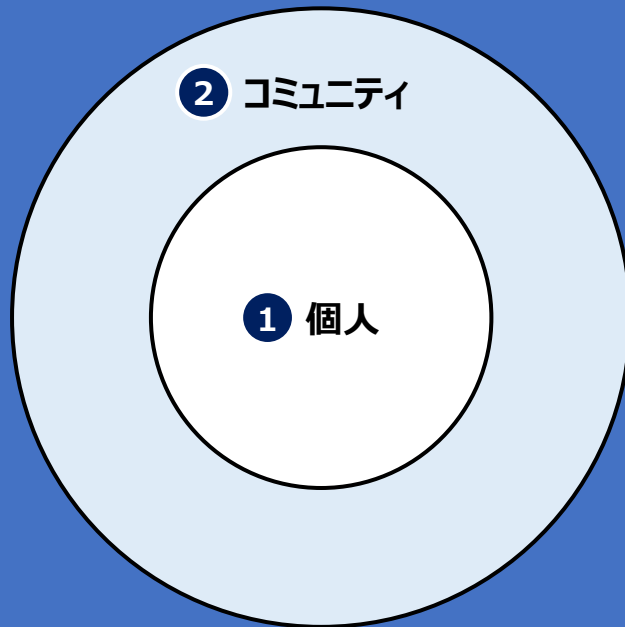
現時点の考え（仮説）

印西市の状況（現状・課題）は？

サブ論点1-2

WGで出た意見を「① 個人」と「② コミュニティ」の2つの視点で整理してご説明します。

外的要因（背景）
※1-1と共通



印西市の状況（現状・課題）は？

サブ論点1-2

生活の多忙化などにより、学び・地域に関わる時間が確保しにくくなっています。コミュニティは、全体的に衰退傾向にあります。一方、地域には多様な経験や意欲を持つ人や、様々な団体が存在していることから、それぞれの力や活動をつなぐことで、さらなる発展を見込むことができます。

1

個人

学び・地域にかかわる時間の減少

市外への通勤・通学、仕事、子育て、介護などにより生活が多忙となり、学びや地域に関わる時間を確保しにくくなっています。また、地域の人や活動を知り、関わるきっかけが十分でない可能性があります。

一方で、多様な経験や専門性、学び・活動への意欲を持つ市民もあり、それらを生かす機会が十分でない可能性があります。

2

コミュニティ

活動の衰退と可能性

従来の地縁を通じたつながりが弱まっていることから、全体的に地域コミュニティが衰退傾向にあります。

また、地域活動では担い手の不足や固定化がみられ、活動や文化の継続も課題となっています。

一方で、地域には社会教育関係団体、市民活動団体、文化・スポーツ団体など多様な主体があり、それぞれのつながりを広げることで、活動がさらに広がる余地があります。

【参考①】 印西市の状況（現状・課題）は？

サブ論点1-2

日々の生活が多忙化し、特に現役世代は地域やサークル等での学びに関わる時間が確保しにくくなっています。また、シニア世代を中心に、多様な経験や活動への意欲を持つ市民の皆さんも多くいらっしゃる一方、それらを活かす機会やきっかけが十分でない可能性があります。

1 個人

生活の多忙化

市外への通勤・通学、育児、介護、習い事等により、特に現役世代は日々の生活が多忙となり、地域やサークル等での学びに関わる時間を確保しにくくなっています。

地域との接点・きっかけの不足

地域で過ごす時間が限られていることに加え、地域の人や活動を知り、関係を築くきっかけが十分でない可能性があります。
また、転入者が多く、印西市をふるさとと感じにくい面があると考えられます。

経験・意欲を活かす機会

多様な経験や専門性、学び・活動への意欲を持つ市民がいる一方、それらを活かす場や機会が少なく、力を十分に発揮できていない可能性があります。
また、学びや地域活動に関心があっても、手段・参加方法がわからず、心理的なハードルを高く感じている可能性があります。

【参考②】 印西市の状況（現状・課題）は？

サブ論点1-2

従来の地縁を通じたつながりが弱まることで、全体的に地域コミュニティが衰退傾向にあります。各団体では、担い手が不足・固定化する一方、各団体同士をつなげることで、さらなる発展が見込まれます。

2

コミュニティ

衰退傾向

従来の地縁を通じたつながりが弱まり、住民同士が日常的に関わる機会が少なくなり、関係性が希薄化し、地域コミュニティが衰退しています。

担い手不足と固定化

社会教育関係団体、自治会、文化財保護など、さまざまな活動で担い手が不足しています。一部の人に役割や負担が集中している可能性があります。

また、若い世代の参加や世代交代につながりにくく、地域活動や文化の継承も課題として挙げられています。

多種多様なつながり

地域では、社会教育関係団体、市民活動団体、文化・スポーツ団体等、地域には様々な主体があり、それぞれが活動しています。

一方で、各主体同士をゆるやかにつなげることで、さらなる発展が見込まれます。

WGで実施した検討の全体像（再掲）

メイン論点1（Why）

なぜ今、生涯学習・社会教育のあり方を
再考する必要があるのか？

サブ論点1-1

（一般論として）どのような時代背景？

サブ論点1-2

（上記の時代背景を踏まえたとき）
印西市の状況（現状・課題）は？

現時点の考え（仮説）

メイン論点2（What）

印西市が目指す生涯学習
社会教育の姿とは？

サブ論点2-1

生涯学習と社会教育の定義と、それぞれの目的の違い
をどのように考えるべきか？

サブ論点2-2

教育ビジョンで掲げた理念等の関係性をどのように考える
べきか？

サブ論点2-3

住民自治・地域コミュニティとの関係性をどのように考える
べきか？

現時点の考え（仮説）

なぜ今、生涯学習・社会教育を再考するのか（まとめ）

メイン論点1

社会の急速な変化を背景に、「学び」の重要性が高まるとともに、人々の関係性が希薄化していることから、生涯学習・社会教育の重要性が高まっています。

1 急速に変化する社会

人口減少、少子高齢化、AI・デジタル化、家族形態や働き方の変化等が急速に進んでいます。

2 生涯学び続ける必要性

人生が長くなり、変化の早い社会の中で、自ら考え、選択し生涯を通じて学びつづけることの重要性が高まっています。一方で、仕事、学校、子育て等による多忙さから、学びや地域に関わる時間の確保が難しくなっています。

3 学びを介したつながりの再構築

地域コミュニティが希薄化し、世代間交流や地域で自然に集まる機会が減少しています。当市でも地域団体・芸術文化活動の担い手不足・固定化が生じており、人と人がつながる機会をみ育てる必要があります。

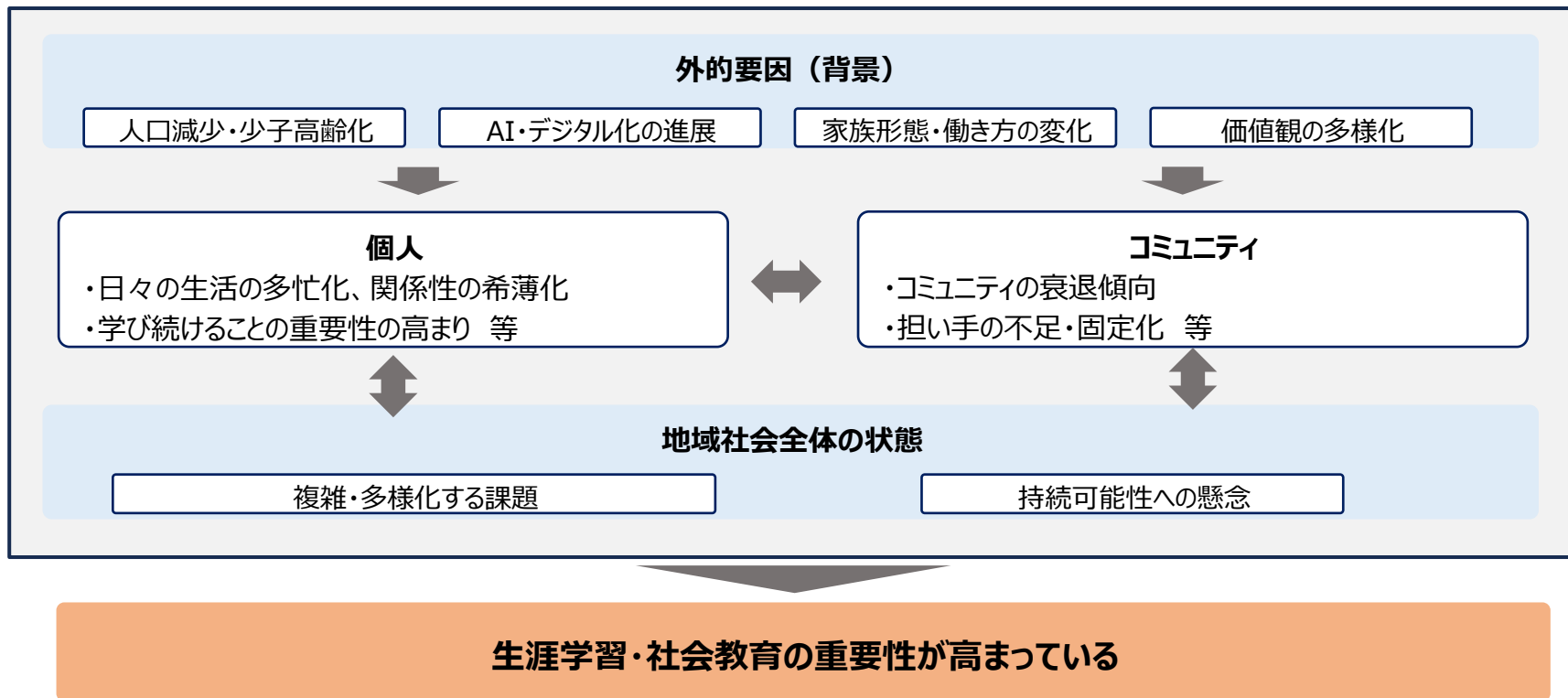
4 持続可能な仕組みの構築

福祉、教育、防災、交通等の課題が複雑に重なり、行政や一部の担い手だけでは対応しにくくなっています。当市では、地域ごとに異なる課題を抱えることから、個人の学びを人づくり、つながりづくり、地域での実践へ循環させ、市全体の持続可能性を支えることが重要になっています。

なぜ今、生涯学習・社会教育を再考するのか（まとめ）

メイン論点1

社会の急速な変化を背景に、「学び」の重要性が高まるとともに、人々の関係性が希薄化していることから、生涯学習・社会教育の重要性が高まっています。



論点 2

印西市が目指す生涯学習・社会教育の姿とは？

WGで実施した検討の全体像（再掲）

メイン論点1（Why）

なぜ今、生涯学習・社会教育のあり方を
再考する必要があるのか？

サブ論点1-1

（一般論として）どのような時代背景？

サブ論点1-2

（上記の時代背景を踏まえたとき）
印西市の状況（現状・課題）は？

現時点の考え（仮説）

メイン論点2（What）

印西市が目指す生涯学習
社会教育の姿とは？

サブ論点2-1

**生涯学習と社会教育の定義と、それぞれの目的の違い
をどのように考えるべきか？**

サブ論点2-2

教育ビジョンで掲げた理念等の関係性をどのように考える
べきか？

サブ論点2-3

住民自治・地域コミュニティとの関係性をどのように考える
べきか？

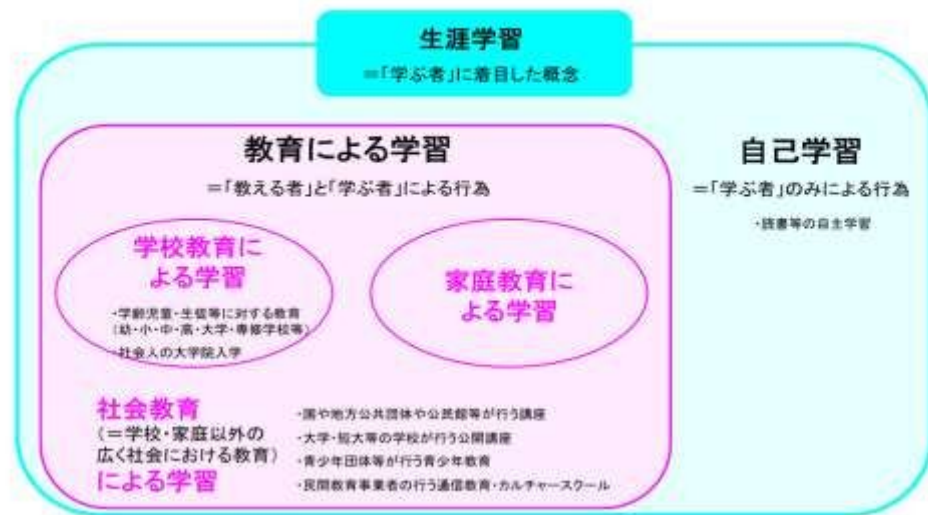
現時点の考え（仮説）

生涯学習と社会教育の定義と、それぞれの目的の違いをどのように考えるべきか？

サブ論点2-1

生涯学習を全年代が行うあらゆる「学び」、社会教育を生涯にわたるその「学び」を支え、人々の関係性を「耕す」役割を有する営みと整理しました。

社会教育と生涯学習の関係(イメージ図)



出典：文部科学省 生涯学習・社会教育に関する基礎資料

生涯学習

- ・ こどもから高齢者まで、あらゆる時期に行うあらゆる学び
- ・ 学習者の視点から捉えたもので、各教育による学習、個人が行う自己学習を含む
- ・ 社会教育より広い概念

社会教育

- ・ 学校教育、家庭教育を除く、社会で行われるあらゆる教育
- ・ 学びを通じて、**人々の関係性を「耕す」**役割を有し、生涯にわたる学びを支える営み

【参考】生涯学習と社会教育の定義と、それぞれの目的の違いをどのように考えるべきか？

サブ論点2-1

生涯学習と社会教育の一般的な定義に留まらず、多様な意見が出ました。

WGで出た主な意見

生涯学習

- 趣味、スポーツ、文化、仕事に必要な学びなど、生涯のあらゆる時期に行う幅広い学び
- 一人ひとりの興味や関心を出発点として、知識や技能を身につけ、自己実現や生活の充実につなげる
- 個人で行う学びと、他者と関わりながら行う学びの双方を含む

社会教育

- 学校教育以外の場で、他者との関係性の中で行われる学び
- 学びを介して人と人が出会い、つながり、互いの知識や経験を分かち合うもの
- 個人の成長に加え、地域への関心、社会参加、地域課題への対応につながる役割をもつ

2つの関係性

- 生涯学習は、生涯にわたる学び全体を捉える幅広い概念であり、社会教育は、その理念を実現するための営みの一つ
- 個人の学びが社会教育を通じて人とのつながりや地域での活動へ広がり、地域での経験が新たな学びを生み出すような関係
- 社会教育によって育まれる人との関係や学び合う環境は、一人ひとりが生涯学び続けるための基盤になる

WGで実施した検討の全体像（再掲）

メイン論点1（Why）

なぜ今、生涯学習・社会教育のあり方を
再考する必要があるのか？

サブ論点1-1

（一般論として）どのような時代背景？

サブ論点1-2

（上記の時代背景を踏まえたとき）
印西市の状況（現状・課題）は？

現時点の考え（仮説）

メイン論点2（What）

印西市が目指す生涯学習
社会教育の姿とは？

サブ論点2-1

生涯学習と社会教育の定義と、それぞれの目的の違い
をどのように考えるべきか？

サブ論点2-2

**教育ビジョンで掲げた理念等の関係性をどのように考
えるべきか？**

サブ論点2-3

住民自治・地域コミュニティとの関係性をどのように考える
べきか？

現時点の考え（仮説）

教育ビジョンでは、目指す教育を、「こどもたち一人ひとりの学びが、子ども自身のウェルビーイングを高め、さらに学校や地域全体へと広がり循環していく姿」と整理しています。（学校教育、こどもが中心の内容）

基本的な考え方

- ① 地域にとってこどもたちは「宝」であり地域の未来そのものです
- ② 「正解がない」といわれる時代において、地域の未来であるこどもたちが、「幸せに生きる力を自ら育むこと」こそが最優先事項であると考えます
- ③ 教育に関する課題がこれまで以上に多様化する中で、市長部局と教育委員会が市の目指すべき教育と一緒に考え一体となって推進していきます

印西市が目指す教育の姿とは？

こどもたち一人ひとりの学びが、こども自身のウェルビーイングを高め、さらに学校や地域全体へと広がり循環していく姿を目指します。

また、こうした姿を実現するためには、まず、こども自身のウェルビーイングを高めることが不可欠です。



教育ビジョンで掲げた理念等との関係性をどのように考えるべきか？（2/2）

サブ論点2-2

教育ビジョンで掲げた「ウェルビーイングの循環」という目指す姿は共通とし、範囲を全世代に広げ、学校教育と生涯学習を切れ目なく捉える必要があると整理しました。

	教育ビジョン		（仮称）生涯ビジョン
メイン 範囲	こども（学校教育中心）		全年代（生涯を通じた学び）
目指す姿	こどもたち一人ひとりの学びが、こども自身のウェルビーイングを高め、その学びを学校、家庭、地域、社会へ循環していく	≡	ウェルビーイングの循環
関係性	・教育ビジョンで掲げた「ウェルビーイングの循環」という目指す姿の方向性は同じ ・こどもの学びを起点に、学校教育と社会教育が相互に関わるような関係性 ・学校教育から全世代の学びへと連続的に捉えることが必要 （学校教育で「学ぶことの楽しさ」や「探究心」を養い、一生学び続けるための基盤をつくる。 → 学校卒業後も、生涯にわたり学び続ける。）		

WGで実施した検討の全体像（再掲）

メイン論点1（Why）

なぜ今、生涯学習・社会教育のあり方を
再考する必要があるのか？

サブ論点1-1

（一般論として）どのような時代背景？

サブ論点1-2

（上記の時代背景を踏まえたとき）
印西市の状況（現状・課題）は？

現時点の考え（仮説）

メイン論点2（What）

印西市が目指す生涯学習
社会教育の姿とは？

サブ論点2-1

生涯学習と社会教育の定義と、それぞれの目的の違い
をどのように考えるべきか？

サブ論点2-2

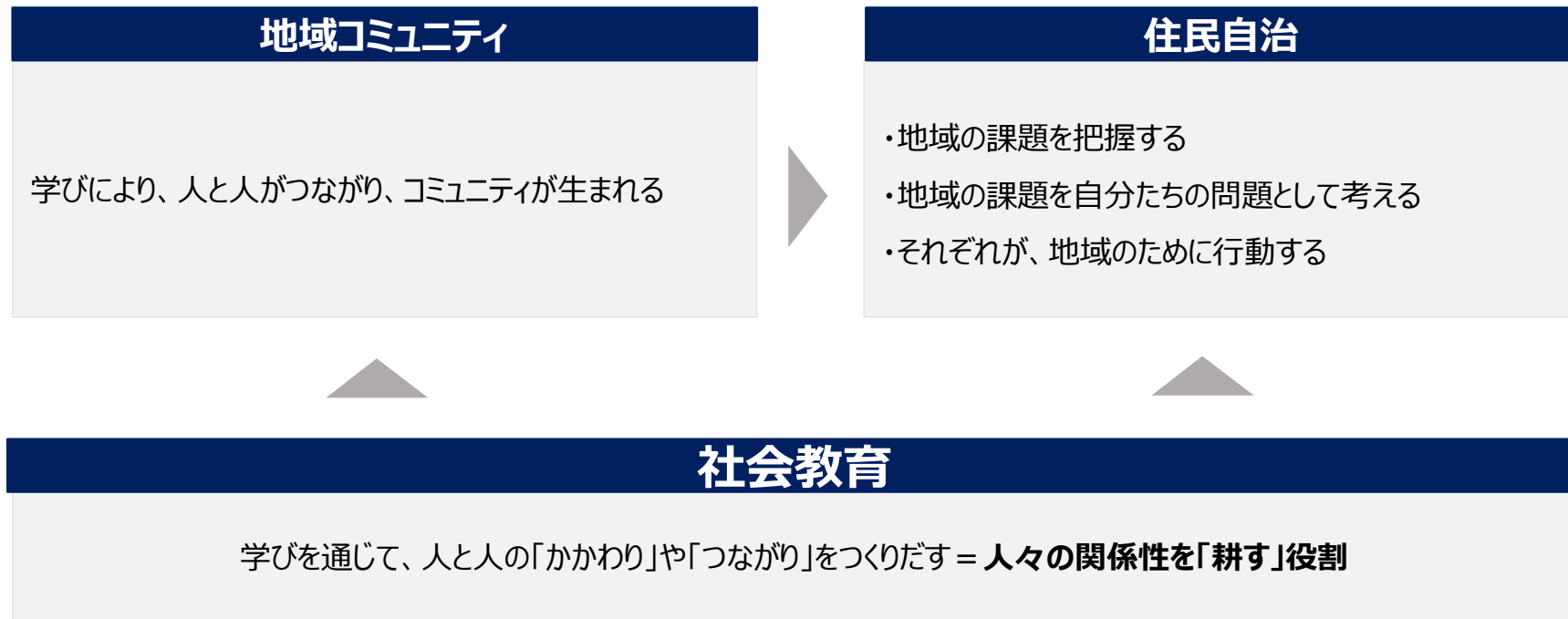
教育ビジョンで掲げた理念等の関係性をどのように考
えるべきか？

サブ論点2-3

**住民自治・地域コミュニティとの関係性をどのように考
えるべきか？**

現時点の考え（仮説）

社会教育によって人々の関係性を耕すことが、地域コミュニティや住民自治を支える基盤となると整理しました。



WGで実施した検討の全体像（再掲）

メイン論点1（Why）

なぜ今、生涯学習・社会教育のあり方を
再考する必要があるのか？

サブ論点1-1

（一般論として）どのような時代背景？

サブ論点1-2

（上記の時代背景を踏まえたとき）
印西市の状況（現状・課題）は？

現時点の考え（仮説）

メイン論点2（What）

印西市が目指す生涯学習
社会教育の姿とは？

サブ論点2-1

生涯学習と社会教育の定義と、それぞれの目的の違い
をどのように考えるべきか？

サブ論点2-2

教育ビジョンで掲げた理念等の関係性をどのように考
えるべきか？

サブ論点2-3

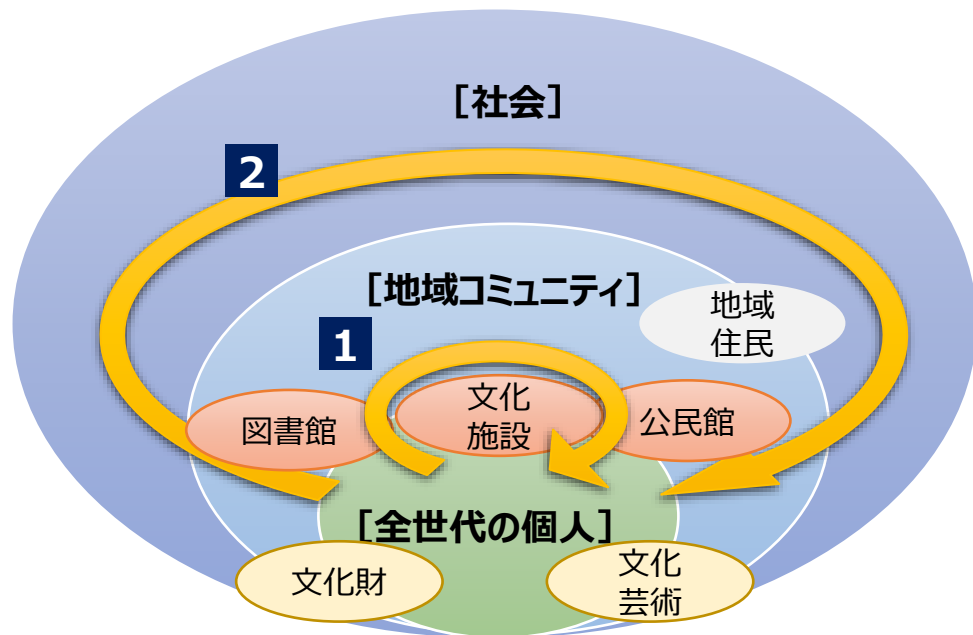
住民自治・地域コミュニティとの関係性をどのように考
えるべきか？

現時点の考え（仮説）

印西市が目指す生涯学習・社会教育の姿とは？（まとめ）

メイン論点2

様々な世代の個人が、主に他者との関係性の中で、生涯にわたり学び続けることによってウェルビーイングを高め、そのウェルビーイングが地域コミュニティから社会全体へと循環する様子を「目指す姿」と整理しました。



1

様々な世代の個人が、主に他者との関係の中で、生涯にわたり学び続けることで、個人のウェルビーイングを実現

2

生涯学習（学びを地域や社会に還元）や社会教育（「学び」を介して、人々の関係性の土壌を耕し生涯学習の基盤を作る）を通じたウェルビーイングの循環（社会・地域のウェルビーイングの実現）

印西市が目指す生涯学習・社会教育の姿とは？（まとめ）

メイン論点2

個人が、主に他者との関係性の中で、生涯にわたり学び続けことによって、ウェルビーイングを高め、そのウェルビーイングが、地域コミュニティから社会全体へと循環する様子を「目指す姿」と整理しました。

個人

- ・主体的に学び続ける
- ・学んだ成果を活かす場がある
- ・自分らしく生きる力を高める
- ・個人のウェルビーイングを高める

地域

- ・学びを介して人づくりを進める
- ・つながりづくり・地域づくりにつなげる
- ・活動の担い手や協働を育てる
- ・地域のウェルビーイングを高める

個人と地域

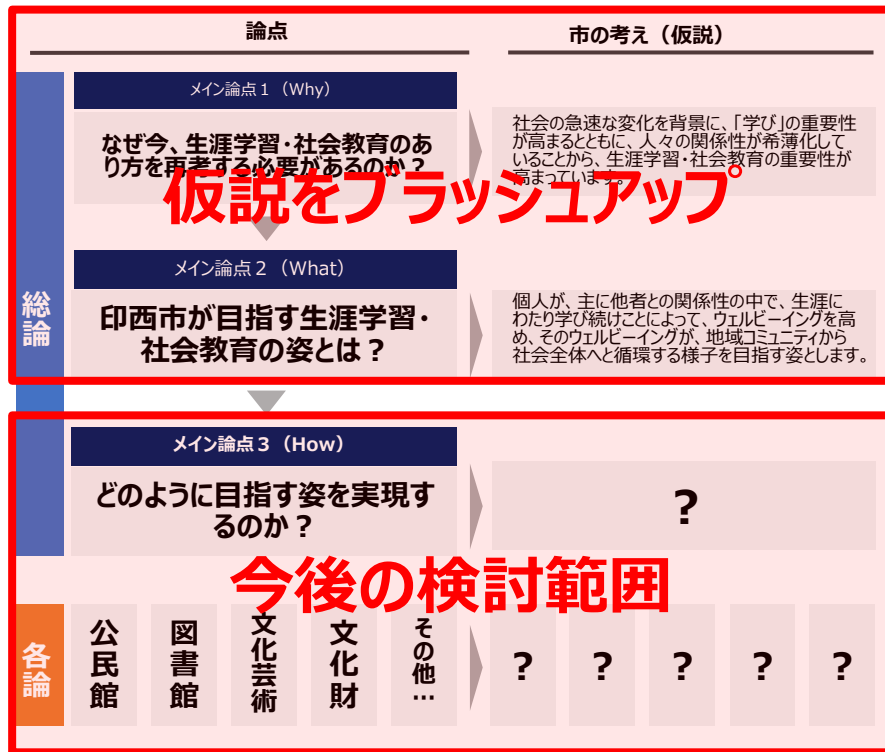
- ・個人の学びが地域に活かされる
- ・地域での実践が新たな学びになる
- ・個人と地域が相互に高め合う
- ・学びと実践の循環をつくる

最後に

今後のスケジュールとブラッシュアップの予定

今後のスケジュールとブラッシュアップの予定

今後は、メイン論点 3「どのように目指す姿を実現するのか」及び各論である各個別分野を検討していきます。その過程で、本日説明したメイン論点 1 と 2 についてもブラッシュアップしていきます。また、市民の皆様の意見を伺い、参考にしながら、検討してまいります。



議論の反映

総合教育会議内での有識者講演や議論踏まえ、論点 1 と論点 2 の仮説を精査し、ブラッシュアップします。

論点 3 の検討

どのように目指す姿を実現するのか及び各個別テーマを検討します。

市民参画

アンケート調査・ワークショップ（予定）、パブリックコメントを実施、皆様の意見を参考にし、仮説をブラッシュアップします。